

## どうすればゴムの強度を極限まで高められるか ～物作りの原点に戻って考える～

主催：一般社団法人日本ゴム協会研究部会 エラストマーの補強研究分科会

協賛：日本化学会，高分子学会，自動車技術会，

(依頼中) 石油学会，繊維学会，日本機械学会，日本合成樹脂技術協会，日本材料学会，日本接着学会，  
日本複合材料学会，プラスチック成形加工学会，マテリアルライフ学会，日本トライボロジー学会，  
日本レオロジー学会 (順不同)

今回は下記の内容で開催いたします，多くのご参加をお待ちしております。

日時：2015年1月16日(金) 午前9時30分～午後4時50分

場所：東京電業会館 地下ホール 東京都港区元赤坂1-7-8 TEL 03 (3403) 5181(代)

受講料：日本ゴム協会会員 協賛団体会員 23,760円 日本ゴム協会学生会員 5,400円

※受講者が日本ゴム協会の正会員でない場合でも，ご所属の会社が法人としてゴム協会員(賛助会員)の場合は  
2名様まで会員扱いの受講料で受付けます

シニア制度対象者 11,880円(60歳以上の正会員) 会員外 32,400円

受講料には消費税・テキスト代を含みます

申込方法：弊会ホームページ <http://www.srij.or.jp/>よりお申込みください。(定員80名)

送金方法：現金書留又は銀行振込(三井住友銀行 日比谷支店 普通Na7100847 一般社団法人日本ゴム協会)。振り込み手数料は受講者側でご負担ください。一度ご入金された受講料は返金いたしかねますので予めご了承ください。開催日が近づきましたら開催ご案内を発送いたします。

問合せ先：一般社団法人 日本ゴム協会 第207回ゴム技術シンポジウム係

(〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1階)

FAX 03 (3401) 4143 TEL 03 (3401) 2957 Eメール nakagawa@srij.or.jp

演 題 (一部仮題目)	講 師・座 長
9:30～9:35 開会のあいさつ	エラストマーの補強研究分科会副主査 佐藤 美洋 【座長】上智大学 佐藤 美洋
9:35～10:40 配合・加硫の制御でどこまで高強度化が可能か	元・横浜ゴム(株) 石川 泰弘氏 ゴム製品の耐久性，長寿命化に関してもっとも基本的な確保すべき性能は破断強度であろう。 このことについて配合による要素と加硫による要素についてその影響度を考察したい。 【座長】(株)ブリヂストン 真下 成彦
10:40～11:45 加硫ゴム物性向上を実現するゴム練り	鬼怒川ゴム工業(株) 小薬 次郎氏 同一配合でもゴム練り状態によりゴム物性が変化することは良く知られているが，どうすればゴム強度をはじめとするゴム物性向上を実現できるのかに関し，自らの経験と実例を中心に，ゴム練り技術の視点から解説を試みる。
12:45～13:50 ポリマーブレンドでどこまで高強度化が可能か	東京農工大学 工学府 産業技術専攻 教授 斎藤 拓氏 エラストマー材料のブレンドによる高強度化について，相分離構造や結晶化の観点から論じる。 【座長】京都工芸繊維大学 浦山 健治
13:50～14:55 ゲルではどこまで高強度化が可能か	北海道大学 先端生命科学研究院 先端融合科学研究部門 助教 中島 祐氏 当研究室でこれまで行われてきた，「溶媒を含んだゴム」であるゲル高強度化の取り組みを紹介する。
15:05～16:10 ラテックスではどこまで高強度化が可能か	(有)Q&A 中出 伸一氏 ラテックス製品について，対生体及び対環境特性を改善し且つ強度向上を図ることは， 難しいが重要な課題である。
16:15～16:45 総合質疑	【司会】深堀 美英
16:45～16:50 閉会のあいさつ	エラストマーの補強研究分科会 主査 深堀 美英

※プログラムは一部変更になる可能性がございます。

☆お申込みは弊会ホームページ <http://www.srij.or.jp/>からお願いします。